

鉄骨工事 Q&A	塗装	現場溶射	制定	2021年5月1日
			改訂	

Q. 現場で行う溶射の方法や手順について教えてください。

A.

屋外に露出される鉄骨はめっき仕様となる場合が多いです。現場接合部をボルト接合ではなく溶接接合となっている場合は溶接後に防錆処理が必要となります。設計図書にはその防錆処理がJIS溶射によると指定される場合がありますが、建方した鉄骨に対してブラスト処理を行うことは一般的には困難です。そこで近年、常温金属溶射(MS工法)にて施工した実績も増えていきますので下記に施工手順を紹介します。採用に当たっては工事現場溶接部を模擬した試験体を作成し、施工試験を実施し性能を確認した後、監理者承認のもと採用することが望ましいです。

屋外露出部で工事現場溶接後防錆処理が必要となる箇所

- ①コラム柱+コラム柱継手部(写真 左)
- ②BOX柱+BOX柱継手部
- ③CFT圧入口打設後のふさぎ板
- ④カバープレート梁の梁継手部
- ⑤ブラケットタイプの梁継手部



施工事例

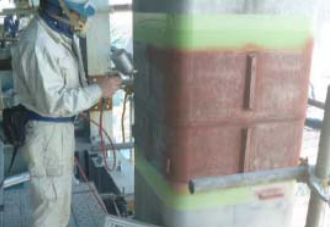


常温金属溶射機材

1.素地調整



2.粗面化处理



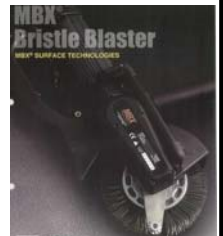
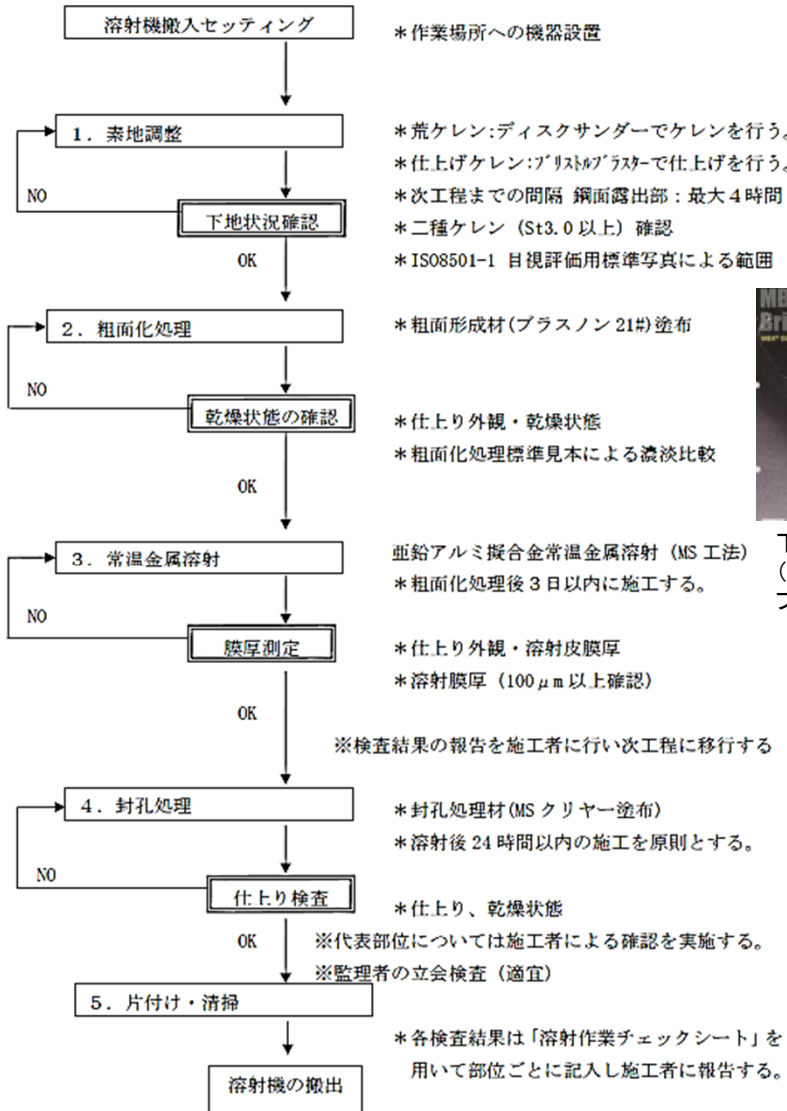
3.常温金属溶射



4.膜厚測定～封孔処理



施工手順



下地処理用具 (ブリストルブラスター)

参考: Q&A A-5-2「溶射」参照

MS工法 施工フロー(例)